

いわき市 体育施設整備指針

平成 30 年 2 月

いわき市スポーツ振興課

いわき市体育施設整備指針

- 目次 -

1	総論	
(1)	策定の趣旨	1
(2)	策定の背景	2
(3)	施設整備指針の対象期間	3
2	施設管理に係る検討事項	
2-1	体育施設を取り巻く環境の変化	
(1)	地域人口の推移	4
(2)	子どもの体力低下	5
(3)	スポーツによる交流促進	6
2-2	スポーツ施設の設置状況	
(1)	スポーツ施設の範囲	7
(2)	スポーツ施設の類型	7
(3)	スポーツ施設の設置地域	8
2-3	体育施設の管理運営のあり方	
(1)	コスト縮減	11
(2)	今後の管理運営のあり方	12
3	体育施設の現状	
(1)	施設区分・立地	15
(2)	安全性	19
(3)	機能	23
(4)	利用状況	28
(5)	その他	33
4	管理運営の方向性	
(1)	基本的な考え方	35
(2)	施設の存続、廃止、集約化	35

1 総論

(1) 策定の趣旨

平成 23 年、従前のスポーツ振興法を全面改訂して公布された「スポーツ基本法」では、スポーツは、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むうえで不可欠であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であると謳われている。また、同法において、スポーツの効果として、青少年の体力の向上や人格形成への影響、地域の一体感や活力の醸成による地域社会の再生への寄与、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠であるとし、地方公共団体については、スポーツに関する施策に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に地域の特性に応じた施策の策定と実施を義務付けている。

また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催が決定するなど、スポーツに対する国民の関心が高まる中、地方自治体においても、スポーツの振興や大規模大会の誘致等が、青少年の健全育成や高齢者の生き甲斐づくりといった教育・福祉・保健行政のみならず、交流人口の拡大や地域経済の活性化等、今後の地域づくりにもたらす効果が改めて着目されている。

本市においても、平成 26 年 3 月に、「いわき市スポーツ推進基本計画」を策定し、「市民一人ひとりの健康で豊かなスポーツライフの実現」を基本目標に掲げ、「生涯スポーツの推進」、「競技スポーツの推進」、「子どもの体力・運動能力の向上」、「スポーツ団体・指導者の育成」、「スポーツ施設等の充実」、「スポーツ交流の推進」を柱とするスポーツ振興施策の展開を図ることとしている。

特に、本市のスポーツ施設については、利用者の安全で快適な活動環境の整備に向けた、計画的な老朽化対策や既存施設の有効活用に努めることとし、震災後の子どもたちの運動不足等による体力低下の解消等を目的とした「スポーツ交流促進施設」の整備や高齢者、障がい者の利用促進に向けたユニバーサルデザインの推進、利用者のニーズに適切に対応した管理運営方法の検討等を掲げている。

一方、体育関連施設を含め、市内公共施設を取り巻く状況を見れば、少子・高齢化の進展や全市的な人口減少等による社会構造の変化の中で、これまで以上に厳しい行財政運営が求められており、施設の更新や改修についても、地域における利用者の減少やコンパクトシティの推進等、市が目指していく将来像とも整合した適切な施設整備のあり方を検討していく必要がある。

本整備指針では、スポーツをめぐる国の動向や地域の社会・経済情勢、市が策定した「いわき市スポーツ推進基本計画」の理念を踏まえながら、今後の適切な施設整備・管理運営のあり方について、その方向性を定めるものである。。

(2) 策定の背景

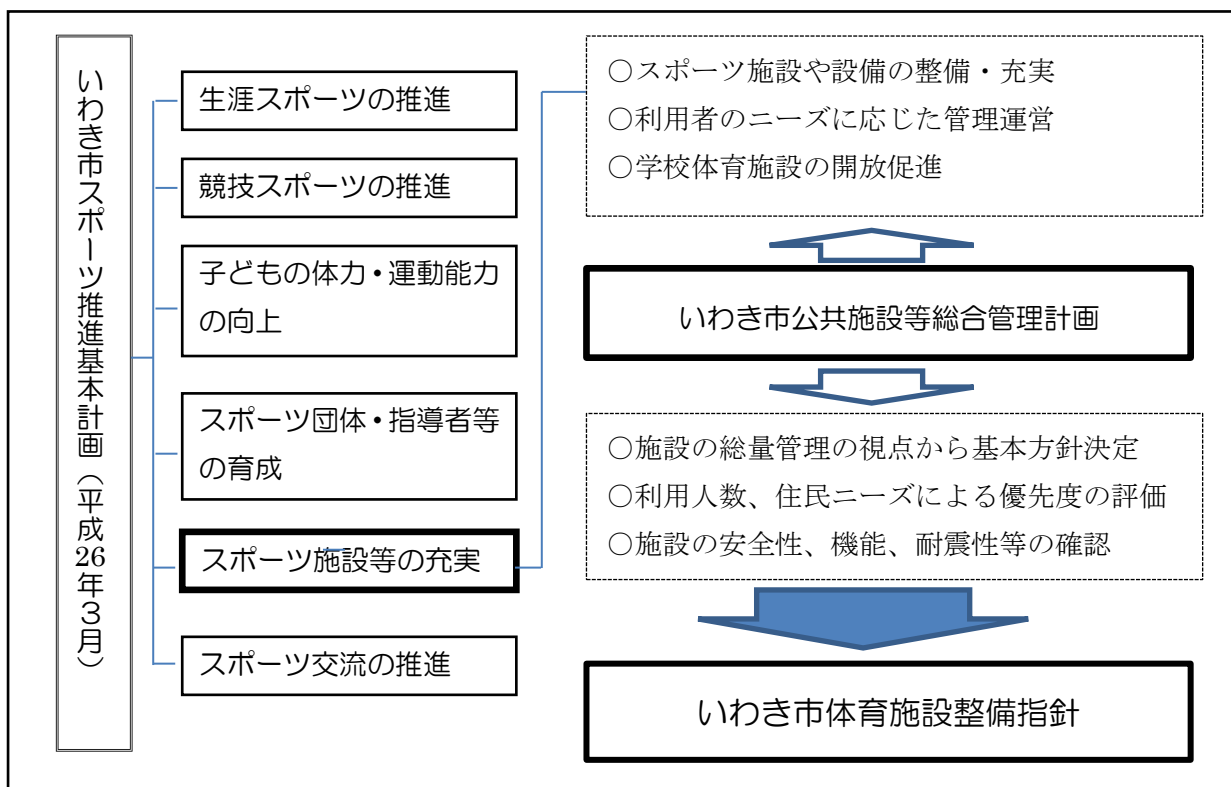
市内の公共施設については、昭和41年の市誕生前後の日本の高度経済成長期に整備されたものも多く、老朽化による維持管理費の増嵩が大きな課題となっている。加えて、近年の少子・高齢化等を背景に、今後急速に進むことが予測されている人口減少などを踏まえ、適切な施設管理のあり方が求められている。

このような視点から、市は平成28年度において当面の市の人口動態などを勘案し、2030年度（平成42年度）までを計画期間とする「いわき市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」）を策定し、今後本計画に基づく市内公共施設の総量管理、運営の適正化に努めることとしている。

スポーツ振興課では総合体育館をはじめ、各地区体育館、テニスコート、多目的運動場、市民運動場など、38の体育施設を所管しているが、その多くが昭和40年代から50年代にかけて整備され、他の公共施設と同様に、ランニングコストに加え、老朽化や、使用頻度の高い施設における設備の劣化対策としての改修・修繕等に伴う経費負担の増大が課題となっている。

一方で、今後の人口減少予測の中において、引き続き増加傾向が続くと見込まれる65歳以上高齢者の健康寿命の延伸を図るための「健康増進」や、「生き甲斐づくり」のための生涯スポーツの振興をはじめ、少子化の緩和や子供たちの体力強化の機会の提供、更には交流人口の拡大や地域経済の発展等を着目した、全国規模・世界大会規模の事業誘致の必要性等、今後の需要増大も視野に、本市の財政状況とも調和した市内体育施設の計画的な整備が必要となっている。

<市上位計画と体育施設整備指針の関係図>



(3) 施設整備指針の対象期間

体育施設整備指針の対象期間は、「総合管理計画」の実施期間に準じ、2017年度（平成29年度）～2030年（平成42年）までの、14年間とする。なお、施設整備等の対象施設等については、状況の推移に応じた適時適切な対応が求められることから、5カ年毎の見直しを行うものとする。

2 施設管理に係る検討事項

2-1 体育施設整備を取り巻く環境の変化

(1) 地域人口の推移

① 地域人口の推移予測

「いわき創生総合戦略」における本市の将来人口の独自推計では、2010年（平成22年）本市人口342,249人に対して、2020年（平成32年）では、313千人（2010年比△8.5%）、2030年では、276千人（同△19.3%）、2040年では、235千人（同△31.3%）、更に2060年では153千人（同△55.0%）と予測している。

特に、中山間地の人口減少が著しく、2010年の人口を100として、川前、三和、田人地区では、2030年に50～55、2060年では12～13と推計されている。

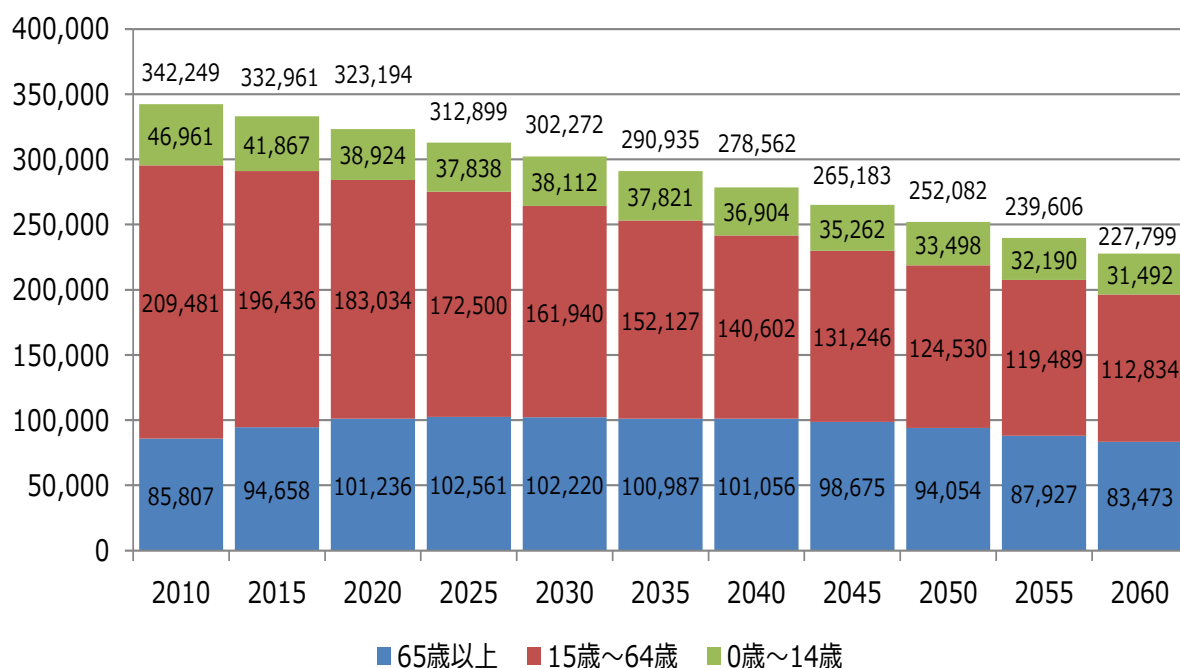
その他の地域でも、平、小名浜地区等一部の地域を除いて、2030年で65～80、2060年で20～45と推計されている。

年齢別人口推移では、同じく2010年の人口を「100」とした65歳以上の高齢者が2050年まで「100」を超えているのに比して、0～14歳の若年人口2030年では「61.1」、2040年では「47.5」、2060年では「27.6」と大幅な減少が予測されている。

本市は、これら予測に対し、若年層の出産、子育て支援、転出の抑制、地元就職の増加を誘導し、2030年（平成42年）で人口30万人（2010年比で12%減）、2060年（平成72年）で22万人（2010年比で36%減）の人口を確保する目標を示しているが、いずれにしても、今後中山間地を中心に、若年層を中心とした大幅な人口減少時代が到来することが確実な状況となっている。

<今後の展望人口>

※「いわき市公共施設等総合管理計画」より



② 人口減少時代を見据えた施設のあり方

こうした今後の人口減少を踏まえて、市は、平成 28 年度に「いわき市公共施設等総合管理計画」を策定し、2030 年（平成 42 年）までを計画期間として、人口減少率を基準に市内公共施設の延べ床面積を概ね 10%に縮減することとし、地域の状況に応じた施設の複合化、集約化、不要施設の削減等の他、民間活力を活用した運営の効率化を図ることとしている。

市内体育施設についても、このような公共施設全体に対する市の政策を踏まえつつ、次のような課題を念頭に入れた方向性の検討が必要である。

ア 高齢者の増加

「総合管理計画」に示された年齢構成別の今後の人口動態に係る展望では、2030 年度までの人口については、2010 年度との比較で 12%の人口減少とされる一方、65 歳以上の高齢者では逆に 19%の増加が見込まれるなど、今後とも増加傾向が続くことが予測されている。

このことから、施設によっては、高齢者の「健康増進」や「生き甲斐づくり」に資する施設利用のニーズが続くことから、施設の改廃等の検討に当たっては、各施設における高齢者の利用の現状を踏まえつつ、施設の維持に加え、ユニバーサルデザインの推進等、高齢利用者の利便向上の視点を優先順位の上位に置く必要がある。

イ 中山間地の人口減少

中山間地を中心として大幅な人口の減少が予測されており、今後、地域住民の健康増進に係る機会の維持と限られた財源の適正配分という観点といった両面を見据えながら、企業や地域団体等による指定管理制度の活用や、住民による管理等、管理運営体制の見直し、エリアマネジメントの視点に立った施設の複合化・集約化等を視野に入れた対策が必要である。

ウ 施設の更新、新設

施設の整備に当たっては、整備後、約 50 年のライフサイクルコストを念頭に入れる必要がある。とりわけ、建設後 30 年を経過した施設の改修、修繕経費の負担は大きいことから、大幅な人口減少に伴う歳入減少を踏まえ、計画的な修繕・改修により経費の縮減、平準化に努めるとともに、既存施設の延命を図りながら、必要最低限の施設整備とすることが必要である。

(2) 子どもの体力低下

社会全体のライフスタイルの変化や交通手段の発達等による運動機会の減少、スポーツや外遊びに必要な時間、空間の減少や地域コミュニティの希薄化、スマホやゲーム機の普及等による子供の遊び方の変質等、社会や経済的背景の変化による子どもの体力低下が指摘されて久しい。加えて、東日本大震災後の外遊びの減少の影響も懸念され、本市の小学生、中学生の対象とした体力・運動能力調査では、全国平均を下回る結果となっている。

今後の人口減少予測において、本市の若年層の減少が見込まれているものの、子育て環境の充実は、子どもたちが地域で生きる力の涵養や地域のコミュニティの形成に寄与し、地域活力の増進、人口減少の歯止めにもつながる重要な取組みであることから、引き続き、スポーツ少

年団や運動部活動、総合型地域スポーツクラブ等の活動の推進や指導者、スポーツボランティアの育成など、子供たちが運動に親しむ機会（ソフト）の充実を図るとともに、これらの活動の場である施設（ハード）の維持・整備が必要である。

(3) スポーツによる交流促進

スポーツの振興は、活動参加者の体力や精神力の向上に資するのみならず、個人や団体間の交流による地域のコミュニケーションの醸成、スポーツを通じたまちづくりに向けた効果が期待される。また、全国、世界規模のスポーツ大会の実施や市外や国外のアスリートとの交流は、子供たちの将来の夢をはぐくむとともに、世代を超えたスポーツへの関心の高まり、スポーツ観戦に来市する人々の増加による交流人口の拡大や地域経済の活性化も期待される。とりわけ、2019 ラグビーワールドカップや2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、観戦に訪れる訪日客が多数見込まれ、スポーツを通じた交流、文化の発信等、地域活性化の絶好の機会であることから、トップアスリートやナショナルチーム等の練習会場誘致等に向けて、これらの大会を見据えた施設の充実、整備を図っていく必要がある。

2-2 スポーツ施設の設置状況

(1) スポーツ施設の範囲

市内には、スポーツ振興課が所管する体育館や市民運動場等の 38 の体育施設をはじめ、グリーンスタジアムやグリーンフィールドのような公園附属施設、学校の体育館や校庭のほか、民間が運営するスポーツ施設等、庁内の他部局が所管する公共施設や民間施設も数多く存在している。

市内のスポーツ施設の管理運営に当たっては、施設類型や所管の異なる公共施設や民間施設等との機能分担や代替利用等の視点を踏まえた総合的な視点での検討が必要である。

(2) スポーツ施設の類型

スポーツ施設は、上荒川公園の総合体育館のように、競技団体や学校等によるスポーツ大会の開催や、一流アスリート、プロスポーツの観戦など、「見せる（観る）」機能を併せ持つ施設や地域に根差した施設、個別の競技種目に特化した単一機能型の施設等、その規模、用途が異なる。これらの施設の特性に応じたストック管理の視点が重要である。

<施設類型区分>

- ・施設の規模や利用実績に応じ、次の区分に分類する。

【公共のスポーツ施設】

① 中核施設

- ・概ね東北大会規模以上の大会開催が可能
- ・「見せる（観る）」施設としての機能を有する
- ・施設の立地地域以外の市民にも広く利用されている

総合体育館、いわき市民プール、平テニスコート、陸上競技場、グリーンスタジアム、グリーンフィールド

② 準中核施設

- ・概ね県大会規模の大会開催が可能
- ・「見せる（観る）」施設としての機能を有する
- ・施設の立地地域以外の市民にも広く利用されている

平野球場、新舞子多目的運動場、新舞子フットボール場、南部スタジアム、南部アリーナ、内郷コミュニティセンター

③ 地域拠点施設

- ・主として地域スポーツ推進のための拠点施設

平体育館、新舞子体育館、小名浜武道館、小名浜港湾運動施設、小名浜野球場、勿来体育館、関船体育館、21世紀森公園多目的広場、各地市民運動場等

④ 単一機能型施設

- ・特定の競技に使用される施設（中核、準中核位置付け施設を除く）

（市民プール、テニスコート、弓道場等）

【民間等のスポーツ施設】

⑤ 民間等施設

（簡保センターテニスコート、明星大学テニスコート、吉野谷公園内テニスコート、民間スイミングスクール等）

(3) スポーツ施設の設置地域

民間施設を含めた市内のスポーツ施設の多くが、平、小名浜、勿来、常磐地区等の都市部に集中している。これらの地域においては、多彩な施設が立地し、域内の住民の高い利便性が担保されている一方、中山間地域においては、市民運動場、屋内体育施設（公民館講堂等を含む）等の最低限の施設が立地し、住民の健康維持、交流の場となっている。

＜平地区＞

体育館が3か所、民間施設を含むテニスコートが5か所、民間施設を含むプールが4か所存在するほか、陸上競技場、野球場、市民運動場、弓道場、球技場等、広範な種目に渡り体育施設が充実している。とりわけ、「総合体育館」、「いわき陸上競技場」、「平テニスコート」、「平野球場」、「新舞子多目的運動場」「新舞子フットボール場」などの中核的施設が集中しており、市内外のスポーツ愛好者や一流アスリート等との交流拠点としての役割を担っている。

＜小名浜地区＞

民間施設を含めたテニスコートが4か所存在するほか、体育館、野球場、市民運動場、プール、球技場等、多様な地域スポーツの拠点が整っている。

＜勿来地区＞

民間施設を含めたテニスコートが5か所存在するほか、体育館、多目的スタジアム、市民運動場、プール、弓道場等、多様な地域スポーツの拠点が整っている。とりわけ、南部スタジアムは、平成27年度に全面人工芝化した多目的に利用できる施設であり、平成28年度にはU-15ベースボールワールドカップでも活用されるなど、南部地域のスポーツ交流拠点として活用されている。

＜常磐地区＞

体育館、テニスコート、野球場、市民運動場、プール、弓道場、球技場など、多様な地域スポーツ拠点が存在する。特に、21世紀森公園内にある「いわきグリーンスタジアム」は、プロ

野球オールスター戦の開催実績やU-15 ベースボールワールドカップの主会場として使用されるなど、隣接する「いわきグリーンフィールド」と合わせて、プロスポーツ等の「見せる」スポーツの拠点として、重要な位置付けを有している。

<内郷地区>

市民運動場の外、内郷コミュニティセンターが立地し、平地区や国道 49 号バイパスの降り口に近い立地であることから、地域外からの利用も多い。

<三和地区>

上三坂、下三坂の 2 体育館を有し、体育施設が集中立地する市中心部から離れた地区住民のコミュニティ、健康増進の拠点施設となっている。

<その他の地域>

地区公民館が窓口となり、市民運動場が市直営で運営されるほか、公民館講堂などが設置され、地域のコミュニティ、健康増進が図られている。

<地域別スポーツ施設設置状況> ※他部局所管、民間施設を含む

地域区分	施設分類	施設区分	施設名称	所管	所在地	備 考	
平	a 体育館	中核施設	総合体育館	いわき市スポーツ振興課	平下荒川	大体育館(2090㎡)、小体育館(860㎡)、柔道場、剣道場、トレーニング室、シャワー室、会議室等	
		地域拠点施設	平体育館	いわき市スポーツ振興課	平字正内町	体育館(948㎡)、会議室	
		地域拠点施設	新舞子体育館	いわき市スポーツ振興課	平下高久	体育館(940㎡)	
	a 陸上競技場	中核施設	いわき陸上競技場	いわき市スポーツ振興課	平下荒川	1周800m・8コース、収容人数：メインスタンド3140人、バックスタンド1626人、芝生席10000人	
		中核施設	いわき陸上競技場補助競技場	いわき市スポーツ振興課	平下荒川	1周300m・4コース、収容人数：スタンド800人	
	a テニスコート	中核施設	平テニスコート	いわき市スポーツ振興課	平上荒川	14面、練習用コート1面	
		単一機能型施設	新舞子テニスコート	いわき市スポーツ振興課	平下高久	4面、ナイター設備有	
		その他の施設	簡保センター	民間施設	平藤間	5面	
		その他の施設	吉野谷公園内テニスコート	民間施設	中央台飯野	2面	
	a	その他の施設	いわき明星大学	民間施設	中央台飯野	10面	
		野球場	準中核施設	平野球場	いわき市スポーツ振興課	平上荒川	収容人員：スタンド15000人
	a 運動場	準中核施設	新舞子多目的運動場	いわき市スポーツ振興課	平下高久	60685㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 サッカー2面	
		地域拠点施設	平市民運動場	いわき市スポーツ振興課	平字正内町	14820㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
	a ブール	中核施設	いわき市民プール	いわき市スポーツ振興課	平下荒川	50m(9コース)、25m(7コース)、子どもプール、ウォータースライダー	
		単一機能型施設	新舞子ヘルスポール	いわき市スポーツ振興課	平下高久	25m(6コース)、流水プール、ジャグジープール、ウォータースライダー、ジム、サウナ	
		その他の施設	大敷イトマンスイミングスクールいわき	民間施設	平上荒川	25m(6コース)	
		その他の施設	スポーツクラブネサンスいわき	民間施設	平谷川瀬	25m(6コース)	
	a	弓道場	単一機能型施設	いわき弓道場	いわき市スポーツ振興課	平下荒川	近的12人立
		a 球技場	準中核施設	新舞子フットボール場	いわき市スポーツ振興課	平下高久	人工芝コート1面、夜間照明6基
	小名浜	b 体育館	地域拠点施設	小名浜武道館	いわき市スポーツ振興課	小名浜宇蛭川	体育館(940㎡)、会議室
地域拠点施設			いわき市企業交流会館	いわき市工業・港湾課	泉町下川	体育館(540㎡)、トレーニングルーム、研修室、交流ホール	
b テニスコート		単一機能型施設	小名浜港湾運動施設	いわき市工業・港湾課	泉町下川	3面	
		その他の施設	洋向台テニスコート	民間施設	洋向台	3面	
		その他の施設	テニススペース泉	民間施設	泉町滝尻	2面、ナイター設備有	
b		その他の施設	アパーズ小名浜店	民間施設	小名浜大原	2面、ナイター設備有	
		b 野球場	地域拠点施設	小名浜野球場	いわき市スポーツ振興課	小名浜林城	収容人員：スタンド 3200人
地域拠点施設			小名浜市民運動場	いわき市スポーツ振興課	泉町字小山	54482㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 野球場1面	
地域拠点施設			東緑地グラウンド	いわき市工業・港湾課	泉町下川	6563㎡ 有効面積：ソフトボール場1面、野球場1面	
地域拠点施設			北緑地グラウンド	いわき市工業・港湾課	泉町下川	10371㎡ 有効面積：ソフトボール場2面、野球場2面	
b ブール	単一機能型施設	小名浜市民プール	いわき市スポーツ振興課	小名浜宇愛宕上	50m(9コース)、幼少児用プール		
	その他の施設	大敷イトマンスイミングスクール小名浜	民間施設	小名浜野田	25m(6コース)		
b 球技場	地域拠点施設	小名浜港湾運動施設(ソフトボール場)	いわき市工業・港湾課	泉町下川	23933㎡ ソフトボール場2面、テニスコート3面(再掲)		
勿来	c 体育館	準中核施設	南部アリーナ	いわき市スポーツ振興課	錦町細谷	体育館(1390㎡)、練習場(271㎡)、シャワー室、会議室	
		地域拠点施設	勿来体育館	いわき市スポーツ振興課	錦町中迎	体育館(1281㎡)、シャワー室	
	c 多目的スタジアム	準中核施設	南部スタジアム	いわき市スポーツ振興課	錦町細谷	収容人数：スタンド1524人	
		単一機能型施設	南部テニスコート	いわき市スポーツ振興課	錦町細谷	5面、ナイター設備有	
	c	単一機能型施設	金山公園内テニスコート	いわき市公園緑地課	金山町朝日台	3面	
		その他の施設	南台団地テニスコート	民間施設	南台	3面	
		その他の施設	呉羽人工芝コート	民間施設	錦町落合	4面	
		その他の施設	アパーズ勿来店	民間施設	勿来町窪田	2面、ナイター設備有	
	c 運動場	地域拠点施設	勿来市民運動場	いわき市スポーツ振興課	山田町沖	34628㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
		その他の施設	クレハ総合グラウンド	民間施設	錦町落合	陸上競技場、軟式野球1面、テニスコート4面	
	c ブール	その他の施設	JSSいわきスイミングスクール	民間施設	中岡町	25m(6コース)	
	c 弓道場	単一機能型施設	勿来弓道場	いわき市スポーツ振興課	勿来町窪田	近的6人立	
常磐	d 体育館	地域拠点施設	関船体育館	いわき市スポーツ振興課	常磐関船町	体育館(1292㎡)、シャワー室	
		地域拠点施設	いわきサンアリーナ	いわき市障がい福祉課	常磐湯本町	体育館(704㎡)、トレーニング室、シャワー室、研修室、会議室	
	d テニスコート	単一機能型施設	21世紀森公園テニスコート	いわき市公園緑地課	常磐水野谷	4面	
		その他の施設	いわきニュータウンテニス倶楽部	民間施設	常磐上矢田	4面、ナイター設備有	
	d 野球場	中核施設	いわきグリーンスタジアム	いわき市公園緑地課	常磐湯本町	収容人員：スタンド14200人	
	d 運動場	地域拠点施設	常磐市民運動場	いわき市スポーツ振興課	常磐湯本町	15569㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
		地域拠点施設	21世紀森公園多目的広場	いわき市公園緑地課	常磐水野谷	19500㎡	
	d ブール	単一機能型施設	ゆったり館クアハウス	いわき市保健福祉課	常磐湯本町	25m(3コース)、ジム、サウナ、浴場	
		弓道場	単一機能型施設	関船弓道場	いわき市スポーツ振興課	常磐関船町	近的6人立
	d 球技場	中核施設	いわきグリーンフィールド	いわき市公園緑地課	常磐水野谷町	天然芝舗装、スタンド収容人員5600人	
内郷	e 体育館	準中核施設	内郷コミュニティセンター	いわき市スポーツ振興課	内郷線町	体育館(1281㎡)、シャワー室、大ホール、会議室	
	e 運動場	地域拠点施設	内郷市民運動場	いわき市スポーツ振興課	内郷宮町	10984㎡ 有効面積：ソフトボール場1面 野球場1面	
四倉	f 運動場	地域拠点施設	四倉市民運動場	いわき市スポーツ振興課	四倉町字栗木作	22152㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
	地域拠点施設	仁井田運動場	いわき市こみ減量推進課	四倉町上仁井田	10350㎡ 有効面積：サッカー場2面、ゲートボール場1面		
遠野	g 運動場	地域拠点施設	遠野市民運動場	いわき市スポーツ振興課	遠野町上遠野	35874㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
小川	h 運動場	地域拠点施設	小川市民運動場	いわき市スポーツ振興課	小川町柴原	31662㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
好間	i テニスコート	単一機能型施設	好間中央公園内テニスコート	いわき市公園緑地課	好間工業団地	2面	
	運動場	地域拠点施設	好間多目的広場	いわき市スポーツ振興課	好間工業団地	21784㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 野球場2面	
三和	j 体育館	地域拠点施設	上三坂体育館	いわき市スポーツ振興課	三和町上三坂	体育館(408㎡)	
	地域拠点施設	下三坂体育館	いわき市スポーツ振興課	三和町下三坂	体育館(408㎡)		
田人	k テニスコート	単一機能型施設	田人おふくろの宿	いわき市林務課	田人町旅人	2面	
	k 運動場	地域拠点施設	田人市民運動場	いわき市スポーツ振興課	田人町黒田	16458㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
川前	l 運動場	地域拠点施設	川前市民運動場	いわき市スポーツ振興課	川前町川前	12339㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面	
久之浜	m 運動場	地域拠点施設	久之浜市民運動場	いわき市スポーツ振興課	久之浜町金ヶ沢	47170㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 野球場1面	

2-3 体育施設の管理運営のあり方

(1) コスト縮減

「総合管理計画」においては、計画期間の2030年度（平成42年度）までの人口減少を12%と見込み、計画期間中に市内公共施設の総床面積のおよそ10%の縮減を目標に掲げており、規模量を縮減することが適当でない施設については、コストの縮減を目指すこととしている。

<「スポーツ・レクリエーション施設」におけるコスト削減の主な観点> ※総合管理計画より

コスト削減の内容	実施を想定する内容
○施設総量の縮減	・利用の少ない施設等の廃止
○施設の複合化、集約化	・同一地区に所在する機能の異なる施設の複合 ・地域の人口分布等の変化に対応した同一施設の集約
○指定管理制度の活用	・指定管理制度の導入や、導入後の運用見直し
○近隣住民による施設の維持管理	・施設の利用者である地域住民に管理を委託
○関連民間施設の活用	・民間施設による機能代替
○包括委託	・複数業務の一括発注、同種施設の一括委託等
○PFIの活用	・民間資本の活用による建築コストの削減、サービスの質の向上
○民間貸付	・公共施設の用途廃止に伴う施設の民間貸付による施設の有効活用
○点検による安全管理、予防保全型の効率的、効果的な維持補修	・施設の長寿命化の視点に立った点検、維持補修による維持経費の平準化
○運営財源の確保・拡大	・適正な受益者負担の見直しによる財源の確保
○対象エリアの見直し	・施設の対象エリアの見直しによる施設の集約化や再配置

地域スポーツの振興は、本市の未来を担う子供たちの基礎体力作りや青少年の健全な育成、高齢者の健康増進、生き甲斐づくりなど、市民の健康で豊かな市民生活の維持に向けて極めて重要な取り組みである。市公共施設等総合管理計画に示された、2030年までの年齢構成別の人口増減予測を見ると、全体的な人口減少に対して、65歳以上高齢者は今後とも増加傾向が続くことが予測されており、地域人口の減少が必ずしも、利用者の減少や施設の運営目的の低減に繋がらない状況も踏まえながら、維持・運営コストの削減を視野に入れた管理運営に努めていく必要がある。

(2) 今後の管理運営のあり方

① 施設類型に応じた方向性

市内体育施設は、その規模、設置目的等に応じ、プロスポーツ等の競技に触れる機会や、市内外の大会開催等による交流人口の拡大等につながる「中核的施設」、立地地域を中心とした多世代の健康増進、交流の促進のための「地域拠点施設」、学校などの部活動や特定のスポーツ愛好者をターゲットにした「単一機能型施設」に分類できる。

施設の今後の管理運営のあり方の検討にあたっては、施設の設置目的や存在理由を踏まえた整理が必要であることから、類型ごとに今後の管理運営の方向性を整理することとする。

<中核的施設>

総合体育館等の中核施設や南部アリーナ等の準中核施設については、市民スポーツの実践の場であるとともに、2019年ラグビーワールドカップの日本開催や2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などを契機に、国を挙げてスポーツ交流やスポーツを通じた地域づくりの機運が高まる中、プロスポーツや一流アスリートの競技に触れることができる「見せる（観る）」施設としての役割を有するほか、市内外の大会等の会場として、立地地域を超えた交流の促進を図ることが可能な施設であり、将来に向けて維持していくべき重要な資産である。

<地域拠点施設>

地域拠点施設は、それぞれの地域に根差した体育館、運動場などであり、世代を超えた地域の交流拠点であるとともに、体育館の多くが避難所に指定されている等、スポーツ振興のみならず、地域防災の観点からも重要な施設であるが、その多くが老朽化しており、多額の管理運営コストがかかっている状況を踏まえたコスト削減を検討する必要に迫られている。

地域ごとの分布をみると、平、小名浜、勿来、常磐地区に多く立地していることから、地域内、近隣地域における需要と供給のバランス等を見定めながら、廃止や運営形態の見直しについても適宜検討していくものとする。

<単一機能型施設>

単一機能型施設は、テニスコート、プール、弓道場、柔道場等対応種目が限定的なスポーツ施設であり、平、小名浜、勿来、常磐地区に立地している。地域拠点施設と同様に、その多くが老朽化しており、多額の管理運営コストがかかっている状況を踏まえたコスト削減の対応を検討する必要に迫られている。近年は、住宅団地の公園や宿泊施設に付属するテニスコート等の民間施設も多いことから、地域内、近隣地域における需要と供給のバランス、民間施設への機能代替の可能性等を見定めながら、廃止や運営形態の見直しについても適宜検討していくものとする。

【施設類型に応じた方向性】

対応方針	中核的施設	地域拠点施設	単一機能型施設
老朽化に伴う改善・改修	○	○	○
(耐震性のない屋内施設について)耐震工事の実施による利用者の安全性の確保	○	○	○
点検による安全管理、予防保全型の維持補修	○	○	○
施設総量の縮減	-	○	○
指定管理制度の活用(見直し)	-	○	○
関連民間施設の活用	-	○	○
近隣住民による施設の維持管理	-	○	-
対象エリアの見直し	-	○	○

② 各施設の管理運営の検討手法について

施設の改廃等を含めた今後の管理運営にあり方については、スポーツ振興課において所管する体育施設について、体育館や野球場などの施設分類ごとに、中核施設や地域拠点施設等の施設区分、それぞれの施設の立地や利用状況、現況等を踏まえて検討することとする。

<検討の流れ>

ア) 施設区分毎の対象施設の洗出し

市体育施設条例に位置付けられている施設を基本に、管理運営の見直しの対象となる施設の洗出しを行う。

イ) 施設の状況の確認

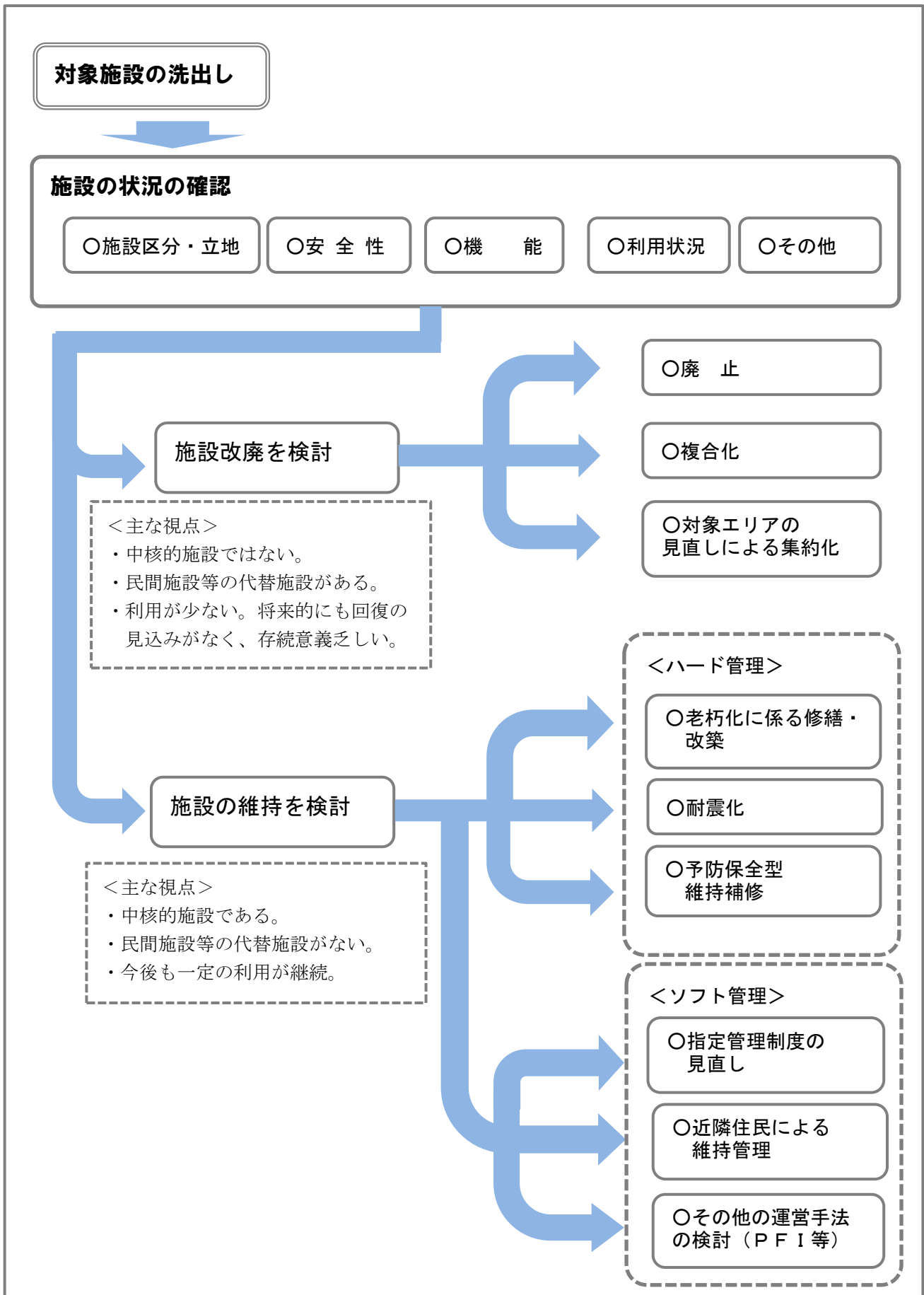
各施設の立地、老朽化や耐震性能等の状況、利用実態等を確認する。

<p><確認項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 区分・立地 …… 施設の設置目的、市や地域における施設の位置付け ○ 安全性 …… 耐用年数、設備の劣化状況、耐震性能、 ○ 機能 …… バリアフリー対応状況、ニーズへの対応状況 ○ 利用状況 …… 施設の年間利用者数の推移 ○ その他 …… 緊急性、スポーツ政策等、その他の判断事項 	
--	--

ウ) 管理運営の見直し等の方向性判断

施設区分等、各施設に求められる位置付けや施設の状況などから、施設の今後の維持管理のあり方等の方向性を判断する。

<検討フロー>



3 体育施設の現状

(1) 施設区分・立地

<体育館>

平地区に中核施設としての総合体育館が、勿来地区、内郷地区に準中核施設が配され、全国大会や大会等の拠点として機能しているほか、他部局所管施設を含む体育館が、旧5市（平、小名浜、勿来、常磐、内郷）地区を中心に設置されている。

体育館は、競技スポーツの場であるとともに、日常的な運動やニュースポーツの場として、世代を問わず、市民の利用に供する必要がある。現在、体育施設としての体育館のほか、各地域においては、市内36公民館の講堂等、屋内体育施設が居住人口に応ずる形で、過不足なく設置されている。

なお、三和地区に上三坂、下三坂体育館が設置されているが、これらは昭和55年に上三坂小学校、下三坂小学校、中三坂小学校を三坂小学校に統合するにあたり、廃校となった小学校の体育館を地域振興の観点から地域体育館として例外的に再整備したものである。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備考
中核施設	総合体育館	いわき市スポーツ振興課	平	平下荒川	大体育館(2090㎡)、小体育館(860㎡)、柔道場、剣道場、トレーニング室、シャワー室、会議室等
地域拠点施設	平体育館	いわき市スポーツ振興課	平	平字正内町	体育館(948㎡)、会議室
地域拠点施設	新舞子体育館	いわき市スポーツ振興課	平	平下高久	体育館(940㎡)
地域拠点施設	小名浜武道館	いわき市スポーツ振興課	小名浜	小名浜字蛭川	体育館(940㎡)、会議室
地域拠点施設	いわき市企業交流会館	いわき市工業・港湾課	小名浜	泉町下川	体育館(540㎡)、トレーニングルーム、研修室、交流ホール
準中核施設	南部アリーナ	いわき市スポーツ振興課	勿来	錦町細谷	体育館(1390㎡)、練習場(271㎡)、シャワー室、会議室
地域拠点施設	勿来体育館	いわき市スポーツ振興課	勿来	錦町中迎	体育館(1281㎡)、シャワー室
地域拠点施設	関船体育館	いわき市スポーツ振興課	常磐	常磐関船町	体育館(1292㎡)、シャワー室
地域拠点施設	いわきサンアビリティーズ	いわき市障がい福祉課	常磐	常磐湯本町	体育館(704㎡)、トレーニング室、シャワー室、研修室、会議室
準中核施設	内郷コミュニティセンター	いわき市スポーツ振興課	内郷	内郷綴町	体育館(1281㎡)、シャワー室、大ホール、会議室
地域拠点施設	上三坂体育館	いわき市スポーツ振興課	三和	三和町上三坂	体育館(408㎡)
地域拠点施設	下三坂体育館	いわき市スポーツ振興課	三和	三和町下三坂	体育館(408㎡)

<陸上競技場>

平地区に中核施設としてのいわき陸上競技場が設置され、日本陸上競技連盟公認第二種施設であることから、若年層の競技者を中心に、大会や練習の場として利用されており、今後とも東北大会や、県大会での利活用はもとより、トップアスリートの利用も視野に入れた機能強化を図りながら、運営を維持していく必要がある。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備考
中核施設	いわき陸上競技場	いわき市スポーツ振興課	平	平下荒川	1周800m・8コース、収容人数:メインスタンド3140人、バックスタンド1626人、芝生席10000人
中核施設	いわき陸上競技場補助競技場	いわき市スポーツ振興課	平	平下荒川	1周300m・4コース、収容人数:スタンド800人

<テニスコート>

平地区に準中核施設として平テニスコートがあり、県大会規模の拠点として機能しているほか、民間施設、他部局所管施設を含め、居住人口の多い平、小名浜、勿来、常磐地区に集中して立地している。

体育施設条例に位置付けられた施設は3か所にとどまるが、官民の宿泊施設や新興住宅地内公園の付属施設等として設置されるケースが多く、今後新たに整備する場合には、これらの施設の活用を踏まえた全体的視点が必要とされる。

このことから、中核施設である平テニスコートについては、今後全国大会の開催等を見据えた機能強化を図りつつ、その他の施設については、現在の利用状況や施設老朽化の状況等を踏まえ、民間等施設による代替可能性を視野に入れた適正な管理運営を図る方向で検討する。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備 考
中核施設	平テニスコート	いわき市スポーツ振興課	平	平上荒川	14面、練習用コート1面
単一機能型施設	新舞子テニスコート	いわき市スポーツ振興課	平	平下高久	4面、ナイター設備有
その他の施設	簡保センター	民間施設	平	平藤間	5面
その他の施設	吉野谷公園内テニスコート	民間施設	平	中央台飯野	2面
その他の施設	いわき明星大学	民間施設	平	中央台飯野	10面
単一機能型施設	小名浜港湾運動施設	いわき市工業・港湾課	小名浜	泉町下川	3面
その他の施設	洋向台テニスコート	民間施設	小名浜	洋向台	3面
その他の施設	テニススペース泉	民間施設	小名浜	泉町滝尻	2面、ナイター設備有
その他の施設	アパーズ小名浜店	民間施設	小名浜	小名浜大原	2面、ナイター設備有
単一機能型施設	南部テニスコート	いわき市スポーツ振興課	勿来	錦町細谷	5面、ナイター設備有
単一機能型施設	金山公園内テニスコート	いわき市公園緑地課	勿来	金山町朝日台	3面
その他の施設	南台団地テニスコート	民間施設	勿来	南台	3面
その他の施設	呉羽人工芝コート	民間施設	勿来	錦町落合	4面
その他の施設	アパース勿来店	民間施設	勿来	勿来町窪田	2面、ナイター設備有
単一機能型施設	21世紀森公園テニスコート	いわき市公園緑地課	常磐	常磐水野谷	4面
その他の施設	いわきニュータウンテニス倶楽部	民間施設	常磐	常磐上矢田	4面、ナイター設備有
単一機能型施設	好間中央公園内テニスコート	いわき市公園緑地課	好間	好間工業団地	2面
単一機能型施設	田人おふくろの宿	いわき市林務課	田人	田人町旅人	2面

<野球場>

準中核施設として、平地区に平野球場、南部地区に南部スタジアム、地域拠点施設として小名浜地区に小名浜野球場が立地している。その他、他部局所管であるが中核的施設として常磐地区のグリーンスタジアムがあり、市内に4球場が存在している。

とりわけ、グリーンスタジアムや南部スタジアムは、プロ野球や、U-15 ベースボールワールドカップの主会場となるなど、本市を代表するスポーツ施設となっており、平野球場は、収容人数15,000人を誇り、高校野球など国内大会の開催場所となっている。

野球場については、このような実績を踏まえた機能強化・老朽化対策を講じる必要がある一方、市内4施設を維持する費用対効果についても検討していく必要がある。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備 考
準中核施設	平野球場	いわき市スポーツ振興課	平	平上荒川	収容人員:スタンド15000人
地域拠点施設	小名浜野球場	いわき市スポーツ振興課	小名浜	小名浜林城	収容人員:スタンド3200人
中核施設	いわきグリーンスタジアム	いわき市公園緑地課	常磐	常磐湯本町	収容人員:スタンド14200人
準中核施設	南部スタジアム	いわき市スポーツ振興課	勿来	錦町細谷	収容人数:スタンド1524人

<市民運動場等>

市民運動場は、地域に最も身近な運動施設として、各地区に公営、民営の施設が整備されている。特に、平成28年度に整備された新舞子多目的運動場は、県内、市内のソフトボール大会やグラウンドゴルフ大会等の会場として中核的役割を担っている。

その他の施設についても、今後、市全体の人口が急激な減少傾向にあることに反して、高齢者人口が増加している人口動態予測も踏まえ、高齢者の健康維持、世代間交流の場として、引き続き、その存在意義は大きい。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備考
準中核施設	新舞子多目的運動場	いわき市スポーツ振興課	平	平下高久	60685㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 サッカー2面
地域拠点施設	平市民運動場	いわき市スポーツ振興課	平	平字正内町	14820㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	小名浜市民運動場	いわき市スポーツ振興課	小名浜	泉町字小山	54482㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 野球場1面
地域拠点施設	小名浜港湾運動施設(ソフトボール場)	いわき市工業・港湾課	小名浜	泉町下川	23933㎡ ソフトボール場2面、テニスコート3面(再掲)
地域拠点施設	東緑地グラウンド	いわき市工業・港湾課	小名浜	泉町下川	6563㎡ 有効面積：ソフトボール場1面、野球場1面
地域拠点施設	北緑地グラウンド	いわき市工業・港湾課	小名浜	泉町下川	10371㎡ 有効面積：ソフトボール場2面、野球場2面
地域拠点施設	勿来市民運動場	いわき市スポーツ振興課	勿来	山田町沖	34628㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
その他の施設	クレハ総合グラウンド	民間施設	勿来	錦町落合	
地域拠点施設	常磐市民運動場	いわき市スポーツ振興課	常磐	常磐湯本町	15569㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	21世紀森公園多目的広場	いわき市公園緑地課	常磐	常磐水野谷	19500㎡
地域拠点施設	内郷市民運動場	いわき市スポーツ振興課	内郷	内郷宮町	10984㎡ 有効面積：ソフトボール場1面 野球場1面
地域拠点施設	四倉市民運動場	いわき市スポーツ振興課	四倉	四倉町字栗木作	22152㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	仁井田運動場	いわき市ごみ減量推進課	四倉	四倉町上仁井田	10350㎡ 有効面積：サッカー場2面、ゲートボール場1面
地域拠点施設	遠野市民運動場	いわき市スポーツ振興課	遠野	遠野町上遠野	35874㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	小川市民運動場	いわき市スポーツ振興課	小川	小川町柴原	31662㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	好間多目的広場	いわき市スポーツ振興課	好間	好間工業団地	21784㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 野球場2面
地域拠点施設	田人市民運動場	いわき市スポーツ振興課	田人	田人町黒田	16458㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	川前市民運動場	いわき市スポーツ振興課	川前	川前町川前	12339㎡ 有効面積：ソフトボール場2面 野球場1面
地域拠点施設	久之浜市民運動場	いわき市スポーツ振興課	久之浜	久之浜町金ヶ沢	47170㎡ 有効面積：ソフトボール場4面 野球場1面

<プール>

市営の施設として、平地区にいわき市民プール、新舞子ヘルスプール、小名浜地区に小名浜市民プールが立地するほか、常磐地区にゆったり館クアハウスが整備されている。

プールは、市民の健康増進やレジャー、競技大会の場として活用されている施設であるが、近年は、オールシーズンで運営される民間のスイミングスクールやジムなどの運動施設と連動して体力増進を図ることができる施設の立地のほか、レジャーの多様化等の影響もあり、建設時に比して、屋外の公営プール施設の存在意義が薄れている現状がある。

屋外の公営プールは、運営経費が高いものの利用は夏季に限られていることから、他の体育施設に比して利用者一人当たりの運営費が高額であることも踏まえ、民間施設の代替可能性や年間利用者の推移等を参酌したうえで、廃止、統合等も視野に入れた検討を行う必要がある。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備 考
中核施設	いわき市民プール	いわき市スポーツ振興課	平	平下荒川	50m(9コース)、25m(7コース)、子どもプール、ウォータースライダー
単一機能型施設	新舞子ヘルスポール	いわき市スポーツ振興課	平	平下高久	25m(6コース)、流水プール、ジャグジープール、ウォータースライダー、ジム、サウナ
その他の施設	大教イトマンスイミングスクールいわき	民間施設	平	平上荒川	25m(6コース)
その他の施設	スポーツクラブネサンスいわき	民間施設	平	平谷川瀬	25m(6コース)
単一機能型施設	小名浜市民プール	いわき市スポーツ振興課	小名浜	小名浜字愛宕上	50m(9コース)、幼少児用プール
その他の施設	大教イトマンスイミングスクール小名浜	民間施設	小名浜	小名浜野田	25m(6コース)
単一機能型施設	ゆったり館クアハウス	いわき市保健福祉課	常磐	常磐湯本町	25m(3コース)、ジム、サウナ、浴場
その他の施設	JSSいわきスイミングスクール	民間施設	勿来	中岡町	25m(6コース)

<弓道場>

平、勿来、常磐地区に各一か所整備されている。弓道場は、高校生等の部活動や経験者、愛好家など、利用者が限定的な施設であるが、他の施設では、代替が不能な競技種目の特殊性を踏まえた検討が必要である。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備 考
単一機能型施設	いわき弓道場	いわき市スポーツ振興課	平	平下荒川	近的12人立
単一機能型施設	勿来弓道場	いわき市スポーツ振興課	勿来	勿来町窪田	近的6人立
単一機能型施設	関船弓道場	いわき市スポーツ振興課	常磐	常磐関船町	近的6人立

<球技場>

平地区に新舞子フットボール場が立地し、他部局所管であるが、常磐地区の21世紀森公園内に、いわきグリーンフィールドが整備されている。新舞子フットボール場は、平成28年度に人工芝のフィールドとして整備され、新舞子体育館、多目的運動場等と合わせて、「新舞子ヴィレッジ」の中心的施設となっており、女子ラグビーナショナルチームの合宿場所としての実績を有する。

また、いわきグリーンフィールドは、県レベルのフットボール競技大会の拠点であり、現在、躍進が顕著な「いわきFC」のキックオフ会場となるなど注目度が高い。今後、本市の「見せるスポーツ」施設の中核として、国内外のトップアスリートの合宿や練習会場、試合を行う場としての位置づけが確立されるよう、機能強化を図っていくことが求められている。

施設区分	施設名称	所管	地域区分	所在地	備 考
準中核施設	新舞子フットボール場	いわき市スポーツ振興課	平	平下高久	人工芝コート1面、夜間照明6基
中核施設	いわきグリーンフィールド	いわき市公園緑地課	常磐	常磐水野谷町	天然芝舗装、スタンド収容人員5600人

(2) 安全性

① 耐用年数

平成 29 年度現在、多くの施設が 30 年以上稼働しており、昭和 35 年竣工の平野球場については、建設後 56 年が経過し、耐用年数を 9 年超過しているほか、小名浜市民プール、新舞子体育館、関船体育館、同弓道場、小名浜武道館、上三坂体育館、下三坂体育館、勿来弓道場の計 9 施設が耐用年数を経過している等、約半数が耐用年数を超過したまま使用されている。

今後、施設存続の可否を判断した上で、引き続き施設機能の維持が必要とされている施設については、計画的な改修のほか、今後のスポーツ政策の視点に立った改築、建替等を検討していくものとする。

また、小名浜市民プール等、施設の設置意義の希薄化や民間同種施設等での代替可能性のある施設については、施設の利用状況の推移等を踏まえ、改廃・統合等を視野に入れた検討が必要である。

<耐用年数が超過している施設>

No.	施設名・竣工年度	竣工年度	経過年数	構造	耐用年数	耐用年数経過年数
1	平野球場	S35	57	RC	47	10
2	勿来弓道場	S60	32	W	22	10
3	新舞子体育館	S50	42	S	34	8
4	関船弓道場	S53	39	S	34	5
5	関船体育館	S51	41	S	34	4
6	小名浜市民プール	S42	50	RC	47	3
7	小名浜武道館	S56	36	S	34	2
8	上三坂体育館	S56	36	S	34	2
9	下三坂体育館	S56	36	S	34	2
10	いわき陸上競技場	S45	47	RC	47	0

＜市体育施設耐用年数等一覧＞

No.	施設分類	施設区分	施設名・竣工年度	竣工年度	経過年数	構造	耐用年数	耐用年数経過年数
1	体育館	中核施設	総合体育館（上荒川運動公園）	S56	36	SRC	47	-11
2		地域拠点施設	平体育館	S57	35	RC	47	-12
3		地域拠点施設	新舞子体育館	S50	42	S	34	8
4		地域拠点施設	小名浜武道館	S56	36	S	34	2
5		準中核施設	南部アリーナ	H14	15	RC	47	-32
6		地域拠点施設	勿来体育館	S55	37	RC	47	-10
7		地域拠点施設	関船体育館	S51	41	S	34	4
8		準中核施設	内郷コミュニティセンター	S59	33	RC	47	-14
9		地域拠点施設	上三坂体育館	S56	36	S	34	2
10		地域拠点施設	下三坂体育館	S56	36	S	34	2
11	陸上競技場	中核施設	いわき陸上競技場	S45	47	RC	47	0
12		中核施設	補助競技場	S46	46	-	-	-
13	テニスコート	中核施設	平テニスコート	S41	51	-	-	-
14		単一機能型施設	新舞子テニスコート	S52	40	-	-	-
15		単一機能型施設	南部テニスコート	H14	15	-	-	-
16	野球場	準中核施設	平野球場	S35	57	RC	47	10
17		地域拠点施設	小名浜野球場	S49	43	RC	47	-5
18		準中核施設	南部スタジアム	H14	15	RC	47	-32
19	運動場	準中核施設	新舞子多目的運動場	H27	2	-	-	-
20		地域拠点施設	平市民運動場	S53	39	-	-	-
21		地域拠点施設	小名浜市民運動場	S54	38	-	-	-
22		地域拠点施設	勿来市民運動場	S57	35	-	-	-
23		地域拠点施設	常磐市民運動場	S55	37	-	-	-
24		地域拠点施設	内郷市民運動場	S62	30	-	-	-
25		地域拠点施設	四倉市民運動場	S52	40	-	-	-
26		地域拠点施設	遠野市民運動場	S53	39	-	-	-
27		地域拠点施設	小川市民運動場	S56	36	-	-	-
28		地域拠点施設	好間多目的広場	H2	27	-	-	-
29		地域拠点施設	田人市民運動場	S48	44	-	-	-
30		地域拠点施設	川前市民運動場	S49	43	-	-	-
31		地域拠点施設	久之浜市民運動場	H元	28	-	-	-
32	プール	中核施設	いわき市民プール	H5	24	RC	47	-23
33		単一機能型施設	新舞子ヘルスポール	H7	22	RC	47	-25
34		単一機能型施設	小名浜市民プール	S42	50	RC	47	3
35	弓道場	単一機能型施設	いわき弓道場	H7	22	RC	47	-25
36		単一機能型施設	勿来弓道場	S60	32	W	22	10
37		単一機能型施設	関船弓道場	S53	39	S	34	5
38	球技場	準中核施設	新舞子フットボール場	H28	1	-	-	-

② 高頻度使用による設備の劣化

耐用年数が経過していない施設、テニスコート等の屋外スポーツ施設においても、経年劣化、高頻度の使用による設備の損傷が大きく、施設管理者や利用者（団体）から多くの修繕要望が寄せられている。

経常経費の費目としての「修繕料」については、市内施設の老朽化対策等として、平成 27 年度から、前年度予算ベースの 10%増額の予算措置が行われているが、必要な修繕が追いついていない状況が続いている。

<経常経費 修繕料・工事請負費予算推移>

（単位：千円）

年度	予算額		備考
	修繕費	工事請負費	
H25	3,560	21,214	
H26	3,830	21,286	
H27	5,795	20,873	
H28	7,619	21,892	
H29	16,130	12,737	

また、施設に求められる機能維持、利用者の安全な使用に資するため、大規模な改修などが見込まれる工事については、体育施設改良整備事業として、政策経費に計上しているが、老朽化などによる整備箇所が増加、改修規模の拡大等により、財政措置が困難となるケースも多く、施設の安全で快適な利用環境が確保されない事例が散見されている。

<政策経費 体育施設改良整備事業費>（×）は予算措置見送り （単位：千円）

年度	要求額	査定額	主な要求内容
H25	26,274	10,443	陸上競技場非常用電機設置工事 内郷市民運動場防球ネット設置工事（×）
H26	51,394	51,394	関船体育館ブレース復旧工事 市民プールプールサイド改修工事
H27	107,442	31,000	陸上競技場補助競技場法面改修工事 市民プール床改修工事（×）
H28	195,690	12,669	平テニスコート人工芝改修工事（6面）（×） 市民プール床改修工事（×） 上荒川公園駐車場区画線改修工事（×）
H29	252,039	185,876	平テニスコート人工芝改修工事（6面） 内郷コミュニティセンター空調設備改修工事 市民プール床改修工事 上荒川公園駐車場区画線改修工事 新舞子ヴィレッジ周辺環境整備工事（×）

利用者や施設管理者から寄せられる毎年度の要望や、緊急対応が必要とされる突発的な破損等を除き、施設の安全性の確保、長寿命化に当たって計画的に取り組むべき修繕・改修については、既存ストックの適正管理を目指している「市公共施設等総合管理計画」の趣旨に基づき、実施計画等への位置づけにより、実施を担保する必要がある。

<計画的な改修等が急務とされる設備>

施設名称	事業区分	実施内容	実施理由等
総合体育館	改修	床改修	全国的に老朽体育館の床の破損により、競技中に利用者が大怪我をするなどの事故が発生しており、同体育館の床はS56年度の竣工以降、張替が実施されず、放置すれば大事故につながる事が懸念されるため。
平テニスコート	改修	人工芝改修（8面）	H13年度の人工芝敷設から、15年が経過し、損耗が激しいため。
南部スタジアム	改修	防球ネット設置・嵩上げ	3塁側防球ネットが低く、アリーナ、テニスコート側に飛球が飛び出し、他の施設利用者の安全を脅かす懸念から、高校野球等、硬球を使用する大会の開催ができない状況が続いているため。
いわき市民プール	改修	幼児用プール床面改修	子供用プールのペンキの剥落により、破片が利用児童の爪の間に刺さり、怪我をする事例が発生しており、安全確保のために早期の対策が必要であるため。
関船弓道場	新設	防矢ネット設置	防矢ネットが設置されておらず危険なため。
勿来弓道場	改修	屋根改修	屋根が腐食しており危険なため。

③ 耐震性能の低下

平成9年度に実施した、建築基準法改正前の昭和56年以前に整備された施設等を対象とした耐震性能調査において、IS値が0.7未満の施設については、耐震化工事を実施済である。

しかし、平成9年度の調査において一定の耐震性が確認された施設についても、診断後約20年が経過していることや、昭和56年以前に整備された施設のうち、屋外運動施設であって、耐震診断を実施していない施設についても、観客席等、一時的に多くの市民が利用する設備もあることから、今後、計画的な耐震診断、健全度調査等を行い、それらの結果に基づき必要な対策を実施して利用者の安全・安心を担保することが求められている。

特に、新舞子体育館については、耐用年数が大幅に超過しているうえ、耐震性能が著しく低下している現況にあり、利用者の安全性確保の観点から、早期の改善が必要である。

<耐震化の状況>

建物名称	構造区分	建築年	耐震化の状況（構造体）				避難所指定
			耐震診断実施状況	耐震診断実施予定	Is 値	耐震化工事実施状況	
総合体育館	SRC	S56	実施済		0.7 以上	実施不要	○
平体育館	RC	S58	実施済	—	0.6 以上 0.7 未満	実施済	○
新舞子体育館	S	S50	実施済	—	0.3 以上 0.4 未満	未実施	—
勿来体育館	RC	S56	実施済	—	0.5 以上 0.6 未満	実施済	○
関船体育館	S	S52	実施済	—	0.5 以上 0.6 未満	実施済	○
上三坂体育館	S	S56	実施済	—	0.6 以上 0.7 未満	実施済	○
下三坂体育館	S	S57	実施済	—	0.4 以上 0.5 未満	実施済	○
いわき陸上競技場	RC	S46	未実施	未定	—	未実施	—
平野球場	RC	S35	未実施	未定	—	未実施	—
小名浜野球場	RC	S50	未実施	未定	—	未実施	—
関船弓道場	S	S54	未実施	未定	—	未実施	—
小名浜市民プール	RC	S42	未実施	未定	—	未実施	—

(3) 機能

① 高齢者・障がい者に配慮した施設整備の必要性

市内体育施設の多くは、平成9年度から10年度に実施された福祉のまちづくり整備事業や、近年の施設整備の際にバリアフリー化されているが、生活様式の変化や高齢化の進展を背景とした洋式トイレの設置など、性別や年齢、障がいの有無によらず、だれでも利用できる施設（ユニバーサルデザインの推進）に向けて、更なる対応が必要である。

本市の主要な体育施設の高齢者・障がい者に配慮した入口及びトイレの整備状況は、約3割に留まっており、上三坂体育館や下三坂体育館、小名浜野球場、小名浜市民プール、関船弓道場や勿来弓道場等、整備が未実施の施設もあることから、施設の利用状況や今後の施設の存否の方向性等を踏まえ、高齢者・障がい者の利便向上を図る対応について検討を要する。

＜体育施設バリアフリー化状況一覧＞

施設分類	施設区分	施設名	入	口	ト	イ	レ	実施年度
1 体育館	中核施設	総合体育館	○	○	○	○		H8、H10
	地域拠点施設	平体育館	○	○	○	○		H9
	地域拠点施設	新舞子体育館	○	○	○	○		H17
	地域拠点施設	小名浜武道館	○	○	○	○		H10
	準中核施設	南部アリーナ	○	○	○	○		H11～H14
	地域拠点施設	勿来体育館	○	○	○	○		H10
	地域拠点施設	関船体育館	○	○	○	○		H10
	準中核施設	内郷コミュニティセンター	○	○	○	○		H10
	地域拠点施設	上三坂体育館	×	×	×	×		
	地域拠点施設	下三坂体育館	×	×	×	×		
11 陸上競技場	中核施設	いわき陸上競技場	○	○	○	○		H10
	中核施設	いわき陸上競技場補助競技場	-	-	×	×		
13 テニスコート	中核施設	平テニスコート	○	○	○	○		H12～H13
	単一機能型施設	新舞子テニスコート	-	-	-	-		
	単一機能型施設	南部テニスコート	-	-	-	-		
16 野球場	準中核施設	平野球場	○	○	○	○		H10
	地域拠点施設	小名浜野球場	×	×	×	×		
	準中核施設	南部スタジアム	○	○	○	○		H11～H14
19 運動場	準中核施設	新舞子多目的運動場	-	-	○	○		H17
	地域拠点施設	平市民運動場	-	-	○	○		
	地域拠点施設	小名浜市民運動場	-	-	○	○		H9
	地域拠点施設	勿来市民運動場	-	-	○	○		H9
	地域拠点施設	常磐市民運動場	-	-	○	○		H9
	地域拠点施設	内郷市民運動場	-	-	×	×		
	地域拠点施設	四倉市民運動場	-	-	○	○		H9
	地域拠点施設	遠野市民運動場	-	-	×	×		
	地域拠点施設	小川市民運動場	-	-	×	×		
	地域拠点施設	好間多目的広場	-	-	○	○		H2
	地域拠点施設	田人市民運動場	-	-	×	×		
	地域拠点施設	川前市民運動場	-	-	×	×		
	地域拠点施設	久之浜市民運動場	-	-	×	×		
	32 プール	中核施設	いわき市民プール	○	○	○	○	
単一機能型施設		新舞子ヘルスポール	○	○	○	○		H7
単一機能型施設		小名浜市民プール	×	×	×	×		
35 弓道場	単一機能型施設	いわき弓道場	○	○	○	○		H7
	単一機能型施設	関船弓道場	×	×	×	×		
	単一機能型施設	勿来弓道場	×	×	×	×		
38 球技場	準中核施設	新舞子フットボール場	-	-	○	○		H27

② 中核的施設の機能高度化について

ア) 施設機能の高度化が求められる施設

中核的施設は、市民の日常的な利用の外、全国規模の大会やトップアスリートの利用により、市民スポーツのレベルの向上、地域スポーツ振興に向けた機運の醸成等の効果が期待できる。

とりわけ、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会や 2019 年のラグビーワールドカップの日本開催等を契機として、国が中心となって、スポーツを通じた交流やインバウンド対策により、スポーツを通じたまちづくりや、官民の協働によるスポーツの産業化（スポーツコミッション）に向けた動き等が全国的に活発になる中、市としても、総合体育館や、陸上競技場、平野球場、平テニスコート、新舞子多目的運動場、新舞子フットボール場、南部スタジアム、南部アリーナ、内郷コミュニティセンター等の中核的施設の機能の高度化に向けた検討が必要である。

<施設機能の高度化が求められる施設>

施設区分	施設名称	機能強化の内容	現在の取組状況
中核施設	総合体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・空調、トイレ洋式化 ・照明設備 LED 化 ・バスケットゴール設置 ・得点板整備 	空調、屋根補修、トイレ改修、照明 LED 化工事（H29 年度設計、H30～31 工事予定）
	陸上競技場	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備 ・倉庫新設 ・室内走路の確保 ・エレベータ設置 ・下水道接続 	トイレ、更衣室、シャワー室、照明 LED 化（H29 年度設計、H30～31 工事）
	平テニスコート	<ul style="list-style-type: none"> ・照明設備 	人工芝改修（H29～31） トイレ洋式化（H29）
準中核施設	平野球場	<ul style="list-style-type: none"> ・観客用トイレ洋式化 ・電光掲示板設置 ・エレベータ設置 ・コインシャワー設置 ・下水道接続 ・防球ネット嵩上げ 	下水道設置・接続工事
	新舞子多目的運動場	○新舞子体育館との連動	H28 年度運動場整備
	新舞子フットボール場	○新舞子体育館との連動 <ul style="list-style-type: none"> ・観客席整備 ・スコアボード設置 ・防球ネット嵩上げ 	H28 フットボール場整備

南部スタジアム	<ul style="list-style-type: none"> ・スコアボード改修 ・非常発電機改修 ・コインシャワー ・エレベータ設置 ・防球ネット嵩上げ 	
南部アリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ・照明 LED 化 	トイレ洋式化 (H29)
内郷コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・照明 LED 化 ・コインシャワー設置 	空調改修 (H29)

イ) 実施計画等への位置付けが求められる施設

施設機能の高度化が求められる施設整備のうち、特に利用者の安全性の確保や政策的な重要度が高いと判断される事業については、実施計画等に位置付けた上で、事業の確実な実施を担保していくことが求められる。

<必要性、重要度が高い施設整備>

施設名称	機能強化の内容	必要性、重要度が高い理由
総合体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・空調、トイレ洋式化 ・照明設備 LED 化 	<p>利用者の利便性の向上のほか、トップアスリートや全国規模大会等、見せる（観る）スポーツ誘致などの施設の高度利用に向けて、空調、屋根補修、トイレ改修、照明 LED 化工事の実現が必要(H29年度設計、H30～31 工事予定)</p>
新舞子多目的運動場 新舞子フットボール場	<ul style="list-style-type: none"> ・新舞子体育館との連動 	<p>新舞子多目的運動場、同フットボール場については、H28 年度に施設及び駐車場が整備され、檜葉町に整備されている J ヴィレッジとの連動性を図る観点から、同地に設置されている体育館、ヘルスプール、新舞子ハイツ等の施設と合わせ、「いわき新舞子ヴィレッジ」と命名された経緯がある。</p> <p>新舞子体育館は、施設の耐用年数が大幅に超過し、耐震性能が低下しており、利用者の安全性の確保の観点からも早急な改築等の対応が必要であるが、その整備内容については、多目的運動場やフットボール場との連動により、新舞子ヴィレッジとして一体的な活用が図られるよう、施設機能の高度化に向けた整備について、庁内合意の下、計画的な進行管理が必要である。</p>

南部スタジアム	・スコアボード改修	スコアボードは、H13年度の設置から15年が経過し、安定的に機能せず、大会運営等に支障が生じている。設置事業者にも基盤や交換部品の在庫がないことから、中核的施設として十全な活用が図れるよう、設備の早期更新が必要である。
---------	-----------	---

(4) 利用状況

① 体育施設全体の利用者の推移について

体育施設の利用者は、東日本大震災の被害を受けたH23年度には大きな落ち込みを見せたものの、体育施設全体の利用者は、陸上競技場や市民運動場の団体利用を除いて、回復もしくは利用者の増加傾向が認められる。

各施設の管理運営のあり方の判断については、施設分類ごとにその傾向及び理由を検証していく必要がある。

<過去10年間の体育館の利用件数の推移>

施設分類	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18	
体育館	団体	件数	13,245	5,512	11,213	13,165	12,328	13,656	13,716	103.6%
		人数	354,198	150,778	305,062	341,884	338,066	386,180	324,303	91.6%
	個人	62,099	32,375	55,248	56,257	56,701	64,304	67,636	108.9%	
陸上競技場	団体	件数	333	205	338	369	488	180	230	69.1%
		人数	59,600	20,103	41,698	39,672	69,787	33,430	46,522	78.1%
	個人	39,277	25,132	36,650	41,253	42,174	29,294	44,230	112.6%	
テニスコート	団体	件数	2,681	1,108	2,348	3,594	3,626	4,186	4,090	152.6%
		人数	50,740	21,285	42,657	53,268	52,500	57,879	55,961	110.3%
	個人	51,090	26,190	45,072	39,187	39,628	42,425	42,221	82.6%	
野球場	団体	件数	270	197	238	275	285	296	321	118.9%
		人数	28,088	17,099	27,759	44,994	29,696	25,887	25,660	91.4%
	個人	-	-	-	-	-	-	-	-	-
多目的スタジアム	団体	件数	171	147	230	223	250	162	249	145.6%
		人数	20,288	9,049	19,021	19,712	17,138	13,161	15,623	77.0%
	個人	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市民運動場	団体	件数	5,524	2,550	3,617	4,124	4,212	4,240	4,441	80.4%
		人数	229,089	97,748	170,371	197,894	197,730	186,723	191,228	83.5%
	個人	-	-	-	-	-	-	-	-	-
弓道場	団体	件数	73	36	126	82	86	86	84	115.1%
		人数	6,872	2,876	8,213	7,386	5,903	6,160	7,393	107.6%
	個人	18,584	13,169	23,606	19,516	20,059	17,852	18,725	100.8%	
市民プール	団体	件数	90	12	110	94	120	124	126	140.0%
		人数	8,199	570	5,979	11,135	17,896	14,391	8,593	104.8%
	個人	30,239	0	24,017	25,562	23,161	27,807	25,568	84.6%	
合計	団体	件数	22,387	9,767	18,220	21,926	21,395	22,930	23,257	103.9%
		人数	757,074	319,508	620,760	715,945	728,716	723,811	675,283	89.2%
	個人	201,289	96,866	184,593	181,775	181,723	181,682	198,380	98.6%	

ア) 体育館

総合体育館や南部アリーナ等の中核的施設においては緩やかな増加傾向が認められ、その他の地区体育館（上三坂体育館、下三坂体育館を除く）においては、ほぼ横ばいか微減・微増となっている。

上三坂体育館については、団体利用件数が大きく増加しているものの、団体利用人数は横ばいであり、利用傾向全体に大きな変化は認められない。下三坂体育館は団体利用件数、利用人数ともに半減している。両施設の一日当たりの利用人数は、それぞれ2.59人、1.93人となっており、立地や規模を勘案しても利用人数が極端に少ないと判断せざるを得ない。

施設名	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H27/H18	
総合体育館	団体	件数	3,351	2,825	4,008	4,493	4,015	4,135	3,937	117.5%
		人数	134,387	87,674	136,560	141,462	164,595	185,089	122,155	90.9%
	個人		35,204	27,137	41,106	38,170	38,814	41,803	45,406	129.0%
平体育館	団体	件数	2,104	0	2,048	2,180	2,237	2,221	2,273	108.0%
		人数	37,571	0	39,554	41,757	37,415	38,160	38,729	103.1%
	個人		3,611	0	2,768	2,731	3,386	3,405	3,608	99.9%
小名浜武道館	団体	件数	1,811	548	1,121	1,611	1,761	1,820	2,113	116.7%
		人数	35,607	9,593	20,154	29,299	26,752	25,203	27,729	77.9%
	個人		4,717	0	1,774	3,069	3,571	4,002	4,403	93.3%
勿来体育館	団体	件数	1,378	1,046	1,569	1,494	1,372	1,380	1,393	101.1%
		人数	30,360	29,294	38,404	33,482	28,824	33,310	31,580	104.0%
	個人		3,987	2,148	3,435	3,193	3,450	3,331	3,333	83.6%
関船体育館	団体	件数	1,614	0	300	684	152	1,399	1,368	84.8%
		人数	24,429	0	5,449	12,176	2,504	22,363	23,528	96.3%
	個人		4,458	0	586	2,422	773	5,390	4,150	93.1%
内郷コミセン	団体	件数	1,782	948	1,533	1,390	1,368	1,394	1,260	70.7%
		人数	38,834	22,655	45,845	32,236	29,526	32,100	31,541	81.2%
	個人		6,753	3,090	5,063	5,074	4,862	4,404	4,704	69.7%
南部アリーナ	団体	件数	1,041	0	437	1,154	1,260	1,183	1,228	118.0%
		人数	50,641	0	16,908	49,806	47,155	48,697	47,404	93.6%
	個人		3,328	0	516	1,598	1,758	1,902	2,017	60.6%
上三坂体育館	団体	件数	49	61	83	115	58	60	97	198.0%
		人数	973	762	782	1,155	524	769	936	96.2%
	個人		5	0	0	0	0	0	11	220.0%
下三坂体育館	団体	件数	115	84	114	44	105	64	47	40.9%
		人数	1,396	800	1,406	511	771	489	701	50.2%
	個人		36	0	0	0	87	67	4	11.1%
合計	団体	件数	13,245	5,512	11,213	13,165	12,328	13,656	13,716	103.6%
		人数	354,198	150,778	305,062	341,884	338,066	386,180	324,303	91.6%
	個人		62,099	32,375	55,248	56,257	56,701	64,304	67,636	108.9%
新舞子体育館	利用者数	14,384	0	0	7,104	11,600	12,773	15,491	107.7%	

※新舞子体育館は、H26年度以前は別部局の所管のため集計方式が異なる。

イ) 陸上競技場

東日本大震災の前後で減少が見られたものの、震災後は平成26年度まで増加傾向にあった。平成27～28年度に再び減少傾向に転ずるが、これは主に、日本陸上競技連盟による競技場の検定に向けて、両年度に東日本大震災による陸上競技場及び補助競技場の不陸解消工事を実施し、競技場の使用が制限されたことなどによるものと推量される。

陸上競技場は本市の中核施設の一つであり、今後も安定的な需要が見込まれることから、施設の維持を図ることが必要である。

施設名称	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18	
陸上競技場	団体	件数	333	205	338	369	488	180	230	69.1%
		人数	59,600	20,103	41,698	39,672	69,787	33,430	46,522	78.1%
	個人	39,277	25,132	36,650	41,253	42,174	29,294	44,230	112.6%	

ウ) テニスコート

平テニスコート、南部テニスコートは、団体利用件数が増加しており、新舞子テニスコートは、ほぼ横ばいの状況が認められる。

市内のテニスコートは、都市部、新興住宅地を中心に民間等の施設が多く存在しており、現時点の利用傾向からは、利用者の住み分けが定着している傾向が伺え、市営テニスコートは、一般のテニス愛好者のほか、大会利用や学生等の練習利用等の利用者が固定し、今後とも安定的な利用が継続するものと予測される。

施設名称	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18	
平テニスコート	団体	件数	478	267	555	546	555	627	704	147.3%
		人数	27,126	12,891	27,247	31,108	31,491	35,799	33,587	123.8%
	個人	50,268	26,084	44,834	38,991	39,257	41,847	41,661	82.9%	
南部テニスコート	団体	件数	2,203	841	1,793	3,048	3,071	3,559	3,386	153.7%
		人数	23,614	8,394	15,410	22,160	21,009	22,080	22,374	94.7%
	個人	822	106	238	196	371	578	560	68.1%	
新舞子テニスコート	人数	18,811	3,956	8,426	10,910	12,754	16,501	17,072	90.8%	

※新舞子テニスコートH26年度以前は別部局所管であったため、集計方式が異なる。

エ) 野球場

他部局所管のグリーンスタジアムを除き、平、小名浜野球場、南部スタジアムについては、いずれも、利用件数が増加傾向にあるが、利用人数は横ばい又は減少傾向が認められる。これは、若年人口の減少やスポーツトレンドの推移を反映し、大会等への参加チームの減少などの要因が考えられる。

施設名称	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18
平野球場	件数	160	88	114	142	157	171	182	113.8%
	人数	17,420	10,747	19,426	35,716	21,044	17,010	14,112	81.0%
小名浜野球場	件数	110	109	124	133	128	125	139	126.4%
	人数	10,668	6,352	8,333	9,278	8,652	8,877	11,548	108.2%
南部スタジアム	件数	171	147	230	223	250	162	249	145.6%
	人数	20,288	9,049	19,021	19,712	17,138	13,161	15,623	77.0%
合計	件数	441	344	468	498	535	458	570	129.3%
	人数	48,376	26,148	46,780	64,706	46,834	39,048	41,283	85.3%

オ) 市民運動場

本市には、地区ごとに12の市民運動場が存在している。うち、四倉、久之浜市民運動場については、平成23年度の東日本大震災以降使用されていない現状（久之浜市民運動場は平成29年4月1日に再開）のため、両施設を除いて、年間利用件数の推移をみると、平成18年度との比較で、全体件数で13%の減少、地域別では、特に平、勿来、小川地区で顕著な減少傾向が認められる。

また、川前市民運動場については、利用件数、利用人数ともに少なく、利用者が固定化している傾向が窺える。

市民運動場については、今後、地域の若年層、勤労世代の減少やレジャー等の多様化による一定の減少傾向が続くものと予測されるが、地域に最も身近な運動施設として、子どもたちや高齢者の健康増進やコミュニケーションの場として定着し、その存在意義は大きい。

施設名	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18
平市民運動場	件数	702	261	645	617	559	463	431	61.4%
	人数	21203	7952	21,633	20,723	16468	14,299	12,492	58.9%
小名浜市民運動場	件数	852	544	571	644	617	564	741	87.0%
	人数	39183	22477	29,222	28,641	28813	26,996	41,621	106.2%
勿来市民運動場	件数	825	0	0	0	139	525	581	70.4%
	人数	39735	0	0	0	5774	20,957	19,873	50.0%
常磐市民運動場	件数	723	491	1,006	935	859	865	891	123.2%
	人数	33119	14954	43,938	47,815	52090	43,412	40,075	121.0%
内郷市民運動場	件数	357	348	462	458	484	452	459	128.6%
	人数	5654	7280	7,419	7,909	8401	8,396	8,009	141.7%
四倉市民運動場	件数	177	0	0	0	0	0	0	0.0%
	人数	7183	0	0	0	0	0	0	0.0%
遠野市民運動場	件数	210	209	186	322	397	257	244	116.2%
	人数	16199	7527	16,212	21,486	34388	25,510	19,877	122.7%
小川市民運動場	件数	349	0	0	203	261	242	213	61.0%
	人数	14311	0	0	4,008	6202	7,878	7,791	54.4%
好間多目的広場	件数	908	697	717	788	719	701	758	83.5%
	人数	36655	37558	51,317	62,989	39111	33,798	32,184	87.8%
田人市民運動場	件数	147	0	0	132	172	163	103	70.1%
	人数	6785	0	0	3,847	6335	5,247	8,824	130.1%
川前市民運動場	件数	7	0	30	25	5	8	20	285.7%
	人数	355	0	630	476	148	230	482	135.8%
久之浜市民運動場	件数	267	0	0	0	0	0	0	0.0%
	人数	8707	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	件数	5524	2550	3,617	4,124	4212	4,240	4,441	80.4%
	人数	229089	97748	170,371	197,894	197730	186,723	191,228	83.5%
合計 (四倉、久之浜を除く)	件数	5080	2550	3617	4124	4212	4240	4,441	87.4%
	人数	213199	97748	170371	197894	197730	186723	191,228	89.7%

カ) 弓道場

いわき弓道場、勿来弓道場については団体利用が増加している一方、関船弓道場は個人利用が殆どであり、主に高校生等の部活動の練習場として使用されている状況が認められる。

弓道場は、他に市内に民間施設もなく、競技の特殊性から、他の体育施設の代替利用も不可能であることも勘案した検討が必要である。

施設名	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18	
いわき弓道場	団体	件数	59	26	111	58	60	65	66	111.9%
		人数	6,599	2,488	7,691	6,834	5,335	5,662	6,743	102.2%
	個人	7,950	5,977	12,441	7,688	7,625	7,864	7,602	95.6%	
勿来弓道場	団体	件数	10	6	12	21	21	19	18	180.0%
		人数	186	242	450	467	447	438	650	349.5%
	個人	3,885	2,830	2,671	2,745	2,697	2,508	2,544	65.5%	
関船弓道場	団体	件数	4	4	3	3	5	2	0	0.0%
		人数	87	146	72	85	121	60	0	0.0%
	個人	6,749	4,362	8,494	9,083	9,737	7,480	8,579	127.1%	
合計	団体	件数	73	36	126	82	86	86	84	115.1%
		人数	6,872	2,876	8,213	7,386	5,903	6,160	7,393	107.6%
	個人	18,584	13,169	23,606	19,516	20,059	17,852	18,725	100.8%	

キ) 市民プール

いわき市民プールは、団体、個人利用ともに顕著な増加傾向が認められるのに対し、小名浜市民プールは、幼少児用プールと50mの競技用プールがあるが、大会などによる50mプールの団体利用が皆無であり、個人利用も大幅に減少している。運営経費に加え、施設の老朽化により、利用者の安全性確保に向けた修繕等、維持管理経費が多額であり、利用者一人当たりの経費が極めて高く、健全な行財政運営の視点からは、廃止を含めた早急な改善が求められている。

新舞子ヘルスポールは、震災後、平成26年度まで使用を休止していたが、H28年度には利用者が10万人を超え、ほぼ震災前の水準に戻っている。同プールは会員制施設として運営され、有酸素系のマシンを中心としたトレーニングジムが併設された屋内施設であることから、ゆったり館のクアハウスと同様、日常的な体力増進施設であり、いわき市民プールや小名浜市民プールなどとは、利用目的が異なっている。民間同種施設に比して、比較的リーズナブルに市民に運動の機会を提供できる施設として、今後とも高い需要が見込まれ、施設の機能維持、強化が求められる施設である。

施設名	区分	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H18	
いわき市民プール	団体	件数	67	12	110	94	120	124	126	188.1%
		人数	6,852	570	5,979	11,135	17,896	14,391	8,593	125.4%
	個人	14,878	0	14,682	16,768	14,488	18,679	16,959	114.0%	
小名浜市民プール	団体	件数	14	0	0	0	0	0	0	0.0%
		人数	1,012	0	0	0	0	0	0	0.0%
	個人	13,423	0	9,335	8,794	8,673	9,128	8,609	64.1%	
合計	団体	件数	90	12	110	94	120	124	126	140.0%
		人数	8,199	570	5,979	11,135	17,896	14,391	8,593	104.8%
	個人	30,239	0	24,017	25,562	23,161	27,807	25,568	84.6%	
新舞子ヘルスポール	利用人数	105,239	-	-	-	-	88,056	104,345	99.2%	
※新舞子ヘルスポールは、平成26年度以前他部局所管のため、集計方式が異なる。 ※震災後、H26まで使用休止のため利用者データなし。										

(5) その他

① 新舞子ヴィレッジの機能強化

新舞子体育施設については、平成 28 年 4 月、福島定住等緊急支援交付金（子ども元気復活交付金）を活用し新舞子多目的運動場を整備し供用を開始したほか、5 月には、日本サッカー協会等の支援による全面人工芝のフットボール場が完成する等、檜葉町に立地する J ヴィレッジとの連携強化を念頭に「いわき新舞子ヴィレッジ」と呼称をあらため、本市におけるサッカー・フットボールなどの競技、練習を行う拠点施設の一つとして位置づけたところである。

一方、敷地内に存する新舞子体育館については、多目的運動場、フットボール場等との有機的な運動を図るため、その運営を J ヴィレッジに委託しているものの、施設が狭隘なうえ、耐用年数の超過などによる老朽化や耐震性能の著しい劣化等の課題を抱えている。

これらを踏まえ、J ヴィレッジとの連携、新舞子ハイツ、新舞子ヘルスプール等、「いわき新舞子ヴィレッジ」内に位置する各施設が有機的に連動し、トップアスリートの合宿誘致等が推進できるよう、新舞子体育館の将来的役割を見据えた機能付加を含め、早期改修を進めていく必要がある。

② 運営体制

現在、各地区市民運動場（平、勿来、常磐、内郷を除く）及び、勿来弓道場、小名浜弓道場以外の体育施設については、市外郭団体、体育協会、地区等に運営を委託しており、各機関による自立的な管理が行われている一方、地域に密着した市民運動場等について、直営での運営も行われている。

また、21 世紀森公園内の「グリーンスタジアム」、「グリーンフィールド」等は、本市のスポーツ振興を担う中核施設の位置づけであるが、都市建設部が所管する公園に付帯する施設として、公園緑地観光公社が指定管理を行っている。今後、球技場と屋内運動場、プール、宿泊施設などとも連動した合宿誘致等、新たな事業展開に当たり、指定管理者の専門性の担保や、所管部局の一元化等も、検討を要する課題となっているなど、スポーツ施設同士の連動も課題となっている。

さらに、特定の事業者による指定管理は、運営ノウハウの蓄積等が図られる一方、運営の硬直化や指定管理者相互の連携等の課題も想定されることから、民間企業の活用なども含めた指定管理体制の見直し等も検討する必要がある。

< 指定管理の見直し検討が必要な施設 >

施設名称	指定管理者等	検討が必要な理由
新舞子ヘルスプール	(一財)いわき市 勤労福祉事業団	新舞子ヴィレッジ内施設の運営の整合化、有機的連携を図る観点から、体育館、フットボール場等との一元的管理を検討
グリーンスタジアム グリーンフィールド	(一財)いわき市 公園緑地観光公社	市の体育施設に位置付けた上で、施設運営、スポーツ事業のノウハウを有する事業者へ委託

参考 <本市体育施設の管理運営体制>

管理 状況	施設名	委託先・運営公民館
指 定 管 理 者	○上荒川公園内体育施設 総合体育館、陸上競技場、平テニスコート 平野球場、いわき弓道場、いわき市民プール	(一財) いわき市公園緑地観光公社
	平体育館	いわき市平地区体育協会
	平市民運動場	
	小名浜武道館	いわき市小名浜地区体育協会
	小名浜野球場	
	関船体育館	トーホク装美株式会社
	関船弓道場	
	常磐市民運動場	
	○南の森スポーツパーク内体育施設 南部アリーナ、南部スタジアム、 南部テニスコート	いわき市勿来地区体育協会
	勿来体育館	
	勿来市民運動場	
	内郷コミュニティセンター	いわき市内郷地区体育協会
	内郷市民運動場	
	○いわき新舞子ヴィレッジ内体育施設 新舞子体育館、新舞子テニスコート、 新舞子多目的運動場、新舞子フットボール場	株式会社日本フットボールヴィレ ッジ
	いわき市新舞子ヘルスプール	(一財) いわき市勤労福祉事業団
	いわき市立上三坂体育館	上三坂区
いわき市立下三坂体育館	下三坂区	
直 営	小名浜市民運動場	泉公民館
	四倉市民運動場	四倉公民館
	遠野市民運動場	上遠野公民館
	小川市民運動場	小川公民館
	好間多目的広場	好間公民館
	田人市民運動場	田人公民館
	川前市民運動場	川前公民館
	久之浜市民運動場	久之浜公民館
	勿来弓道場	勿来公民館
小名浜市民プール	小名浜公民館	

4 管理運営の方向性

(1) 基本的な考え方

① 施設の廃止等

利用が低調で今後も回復の見込みがなく、民間施設等による代替可能な施設については、廃止や複合化、集約化等、抜本的な見直しを検討するものとする。

② 施設の維持管理

民間施設等の代替可能性が低く、今後も継続的に一定の利用が期待できる施設については、その施設の安全性の程度、求められている機能の水準、利用状況等を勘案し、優先順位を付け、改築や改修、耐震化等の対策を講じながら、運営を継続するものとする。

また、建設年度が比較的新しい施設や改築等を実施した施設については、施設の長寿命化に向け、計画的な予防保全型維持補修を行うものとする。

③ 運営体制の見直し

運営体制の効率化や合理化、施設に求められる事業水準、他の体育施設との連携等の観点から、運営体制の見直しが必要な施設については、指定管理者の見直し等の検討を進めるものとする。

(2) 施設の存続、廃止、集約化

① 体育館

体育館については、平、勿来、内郷地区に中核的施設が設置されているほか、公民館講堂等の施設が過不足なく配置され、子どもたちの体力増進や、今後も増加が予測されている高齢者の健康維持のための施設として継続的なニーズがある。

過去 10 年間の利用者数については、総合体育館や南部アリーナ等の中核的施設において増加傾向にあるほか、その他の地域拠点施設は、ほぼ横ばいの状況が続いている中において、上三坂、下三坂体育館については利用者数が少ないものの中山間地のコミュニティの拠点としての役割を担っていることにも配慮し、今後の利用状況を十分に見極めながら、両施設の統合等について検討を進めることとする。

② 陸上競技場

陸上競技場については、本市の中核施設であり、代替施設も存在せず、今後も安定的な利用が見込まれることから、現状を維持することとする。

③ テニスコート

テニスコートについては、平、南部、新舞子テニスコートのほか、平、小名浜、勿来等の都市部を中心に民間施設も多いが、利用者の住み分けが定着し、3施設とも過去 10 年間安定的な利用実績がある。中核的施設として大会の開催や全市の利用のある平テニスコートのほか、南部、新舞子テニスコートについても、民間施設に比して、低料金で利用できる公共施設の需要が高いことを勘案し、現状を維持することとする。

④ 野球場

野球場は、グリーンスタジアムを含め、平、小名浜、常磐、勿来に配置され、過去10年間の体育施設3施設の利用状況を見ると、利用件数はいずれも増加傾向にある一方、利用人数は減少傾向にあり、地域人口の減少や若年層のスポーツトレンドの変化などによる参加チームの減少等の背景が考えられる。今後、野球場の主たる利用者層である若年層が更に減少する傾向にあり、野球場全体の運営維持費の観点から、一部施設の廃止や運営体制の見直しを含めたコスト縮減を検討していく必要がある。

平野球場、南部スタジアムは、本市の中核的施設として、高校野球や全国レベルの大会の会場として活用されているが、小名浜野球場は、球場整備後の周辺地域の宅地化の進展等もあり、鳴り物による応援が制限されるほか、狭隘な駐車場などの課題もあることから、今後の利用状況の推移を見ながら、廃止もしくは、民間貸与等のコスト縮減策について検討するものとする。

⑤ 市民運動場

市民運動場については、今後、地域の若年層、勤労世代の減少やレジャー等の多様化による一定の減少傾向が続くものと予測されるが、地域に最も身近な運動施設として、子どもたちや高齢者の健康増進やコミュニケーションの場として定着し、その存在意義は大きい。

また、多くの市民運動場は、市の直営施設であり、窓口が近隣公民館に置かれるなど、市の財政負担の軽減を図った運営が行われている状況に鑑み、当面現状を維持することが望ましい。

⑥ 弓道場

弓道場は、平、勿来、常磐地区に各一か所整備されている。他に市内に民間施設もなく、競技の特殊性から、他の体育施設の代替利用も不可能であるが、関船弓道場については、ほぼ特定の高校生の部活動の場として特化している状況を勘案し、同校への弓道場の設置等の働きかけも進めながら、長期的に、施設の統合・廃止についても検討を進めるものとする。

⑦ 市民プール

市民プールは、平地区にいわき市民プール、新舞子ヘルスポール、小名浜地区に小名浜市民プールが立地している。過去10年間の利用状況の推移を見ると、いわき市民プールについては、団体、個人利用ともに顕著な増加傾向が認められる。

新舞子ヘルスポールは、H28年度には利用者が10万人に達し、ほぼ震災前の水準に戻っている。また、有酸素系のマシンを中心としたジムが併設された日常的な体力増進施設であり、いわき市民プールや小名浜市民プールなどとは一線を画し、低価格で市民に運動の機会を提供できる屋内プールを有する施設として、今後とも高い需要が見込まれ、施設の機能維持、強化が求められる施設である。

一方、小名浜市民プールは、幼児用プールは一定の需要が継続しているものの、50mプールは大会などによる団体利用が皆無であり、個人利用も大幅に減少している。人件費を含めた

運営経費に加え、施設の老朽化により、利用者の安全性確保に向けた修繕等、維持管理経費等が多大であり、利用者一回当たり行政負担額が1,600円と突出しているなど、健全な行財政運営の観点からは、50mプールの廃止を含めた早急な改善が必要である。

<小名浜市民プール利用者一人当たり所要額>

区分	A 利用者数 (人) (H24~28平均)	B 維持管理経費 (円) (H24~28平均)	C 一人当たり経費 (円) B/A	D 利用料 (円)	一人当たり行政負担額 (円) C-D
	全体	8,908	14,780,195	1,659	
幼児用プール	6,511	10,789,542	1,657	大人100 子ども50	1,582
50mプール	2,397	3,990,653	1,665		1,565

※幼児用プール利用料は、75円で算定

<小名浜市民プール利用者数の推移>

施設名	区分	H24	H25	H26	H27	H28	平均
小名浜市民プール	幼児用プール	6,814	6,420	6,374	6,663	6,285	6,511
	50mプール	2,521	2,374	2,299	2,465	2,324	2,397
合計		9,335	8,794	8,673	9,128	8,609	8,908

※各施設利用者数は、期間中定時の集計による按分。
幼児用プール:50mプール=73:27

<小名浜市民プール管理運営経費の推移>

施設名称	施設名称	維持管理経費					
		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H24~H28平均
小名浜市民プール	小名浜市民プール	13,277,080	13,866,567	16,319,414	16,872,893	13,565,019	14,780,195
	内訳： 幼児用プール	9,692,268	10,122,594	11,913,172	12,317,212	9,902,464	10,789,542
	50mプール	3,584,812	3,743,973	4,406,242	4,555,681	3,662,555	3,990,653

※経費の按分率は、利用者按分率と同じ
維持管理経費は、光熱水費、人件費等直接経費、修繕費、工事請負費等の合算
(大規模工事費を除く)

＜参考：各施設維持管理費＞

(単位：円)

施設分類	施設区分	施設名称	維持管理経費					H24～H28平均
			H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
体育館	中核施設	総合体育館（上荒川運動公園）	11,269,651	10,361,589	65,258,337	73,927,986	64,164,853	44,996,483
	地域拠点施設	平体育館	5,959,415	7,126,601	6,998,667	7,282,050	7,337,033	6,940,753
	地域拠点施設	新舞子体育館	0	0	1,242,000	4,016,400	3,952,704	3,070,368
	地域拠点施設	小名浜武道館	8,422,011	9,095,166	11,102,138	9,757,150	9,794,700	9,634,233
	準中核施設	南部アリーナ	10,084,457	16,534,280	18,422,392	15,345,588	2,819,880	12,641,319
	地域拠点施設	勿来体育館	20,611,370	11,803,892	11,492,818	11,129,963	631,800	11,133,969
	地域拠点施設	関船体育館	1,196,797	2,329,639	1,068,676	3,414,516	3,644,015	2,330,729
	準中核施設	内郷コミュニティセンター	15,823,865	14,318,957	18,215,762	13,746,095	14,310,931	15,283,122
	地域拠点施設	上三坂体育館	0	168,000	0	50,000	278,640	99,328
	地域拠点施設	下三坂体育館	32,550	856,800	208,440	152,280	124,200	274,854
陸上競技場	中核施設	いわき陸上競技場	51,483,289	54,268,959	33,489,458	18,503,279	30,828,760	37,714,749
	中核施設	補助競技場	0	1,854,887	6,545,180	2,434,685	783,050	2,323,560
テニスコート	中核施設	平テニスコート	47,807,305	42,651,976	21,978,325	29,337,870	27,129,274	33,780,950
	単一機能型施設	新舞子テニスコート	0	1,236,900	0	2,186,000	6,646,218	2,013,824
	単一機能型施設	南部テニスコート	6,670,838	7,390,357	6,969,545	6,682,566	0	5,542,661
野球場	準中核施設	平野球場	13,605,411	19,912,579	7,287,091	14,343,137	11,380,539	13,305,751
	地域拠点施設	小名浜野球場	4,943,175	4,675,310	2,866,977	3,067,259	3,440,737	3,798,692
	準中核施設	南部スタジアム	8,879,468	6,247,826	5,632,079	3,757,581	4,020,840	5,707,559
運動場	準中核施設	新舞子多目的運動場	0	0	0	17,589,000	12,381,386	14,985,193
	地域拠点施設	平市民運動場	3,156,421	2,869,047	2,654,781	2,669,723	2,126,276	2,695,249
	地域拠点施設	小名浜市民運動場	1,013,661	2,310,593	1,262,684	1,251,766	2,435,689	1,654,879
	地域拠点施設	勿来市民運動場	0	257,040	2,139,274	5,911,179	438,480	2,186,493
	地域拠点施設	常磐市民運動場	6,557,549	6,054,141	7,581,122	5,341,079	4,847,449	6,076,268
	地域拠点施設	内郷市民運動場	2,346,716	3,080,450	3,555,471	4,195,192	3,907,123	3,416,990
	地域拠点施設	四倉市民運動場	831,506	886,286	506,831	343,838	341,750	582,042
	地域拠点施設	遠野市民運動場	741,507	1,225,657	1,737,057	725,112	685,179	1,022,902
	地域拠点施設	小川市民運動場	171,423	1,077,242	335,662	688,771	534,686	561,557
	地域拠点施設	好間多目的広場	1,147,621	1,313,938	1,273,080	2,056,954	1,994,985	1,557,316
	地域拠点施設	田人市民運動場	432,914	758,673	1,904,382	891,153	420,843	881,593
	地域拠点施設	川前市民運動場	352,865	136,251	129,437	141,612	363,213	224,676
	地域拠点施設	久之浜市民運動場	464,410	571,018	1,215,559	382,027	367,763	600,155
プール	単一機能型施設	いわき市民プール	14,957,690	15,556,632	11,121,989	13,817,210	10,812,175	13,253,139
	単一機能型施設	新舞子ヘルスポール	0	0	0	0	2,214,000	2,214,000
	単一機能型施設	小名浜市民プール	13,277,080	13,866,567	16,319,414	16,872,893	13,565,019	14,780,195
弓道場	単一機能型施設	いわき弓道場	12,065,013	8,096,384	3,955,677	4,389,365	4,996,820	6,700,652
	単一機能型施設	勿来弓道場	130,486	231,897	257,681	343,920	175,111	227,819
	単一機能型施設	関船弓道場	1,278,437	2,457,565	1,355,651	927,664	1,037,711	1,411,405
球技場	準中核施設	新舞子フットボール場	0	0	0	10,030,000	11,253,805	10,641,902
合 計			265,714,901	271,583,100	276,083,638	307,702,862	266,187,636	296,267,330